

株式会社ソフトフロント

2010年3月期 第1四半期決算説明資料

2009年8月3日

この資料に記載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況に関する説明における「期待」、「計画」、「見込み」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものには限定されません。口頭または書面による見通し情報は、広く一般に開示されるほかの媒体にも含まれる可能性があります。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られた当社の判断にもとづいています。実際の業績は、様々なリスクや不確実な見通しの上に全面的に依拠することはお控えいただけますようお願いいたします。

2010年3月期第1四半期業績の概要

取締役 財務・管理統括担当 佐藤健太郎

業績の概要

(単位：百万円)

	2009年3月期 第1四半期	2010年3月期 第1四半期	前年同期比 (%)	ご参考 2009年3月期 通期実績
売上高	125	92	△26%	764
営業損益	△94	△134	—	△203
経常損益	△94	△134	—	△204
当期純損益	△94	△134	—	△205

春先まで継続した、通信機器メーカーを中心とした設備投資抑制の影響により減収。
 全体的な経費削減につとめたものの、Android対応等の新技術に関わる研究開発費用等の事業投資的な費用が増加したことにより費用が微増し、営業損失幅が拡大。

「売上高」の状況

(単位：百万円)

	2009年3月期 第1四半期	2010年3月期 第1四半期	前年同期比 (増減額)	ご参考 2009年3月期 通期実績
売上高	125	92	△32	764
ソフトウェア 販売	38	15	△23	148
受託開発	86	77	△9	616

使用許諾開始時期等の関係から第1四半期でのソフトウェア販売が減少。主要顧客のソフトウェア更新はおおむね順調であり、通期でのソフトウェア販売額への大きな影響はないと考えている。

受託開発売上は、進行度等の計上時期の関係から昨年比微減であるが、SIP搭載端末の実用に向けた受託開発案件需要は堅調。

「受注高」の状況

(単位：百万円)

	2009年3月期 第1四半期	2010年3月期 第1四半期	前年同期比 (増減額)	ご参考 2009年3月期 通期実績
受注高	228	176	△51	731
受注残高	169	117	△51	33

昨年度は、長期にわたる受託開発案件の受注が6月に多く、受注高が増加した。

今年度は、春先まで継続した、通信機器メーカーを中心とした設備投資抑制の影響により第1四半期受注高が伸びなかったが、SIP搭載端末の実用に向けた受託開発案件需要は堅調であり、通期での受注見通しに大きな影響はないと考えている。

2010年3月期第1四半期：キャッシュ・フローの概要

（単位：百万円）

営業活動によるキャッシュ・フロー	115
税引前当期純利益	△133
減価償却費	29
売上債権の増減額（△増加）	257
仕入債務の増減額（△減少）	△32
その他	△6
投資活動によるキャッシュ・フロー	△22
財務活動によるキャッシュ・フロー	0
現金及び現金同等物の増減額	93
現金及び現金同等物期末残高	618
フリー・キャッシュ・フロー	93

事業展開について

代表取締役社長 阪口克彦

第13期は、次世代ネットワーク(NGN)の広まりとともに、当社のSIP／VoIP技術をコアとしたトータルソリューションと製品群の提供を、さらに拡大強化しています。なかでも以下の活動に重点的に取り組んでいます。

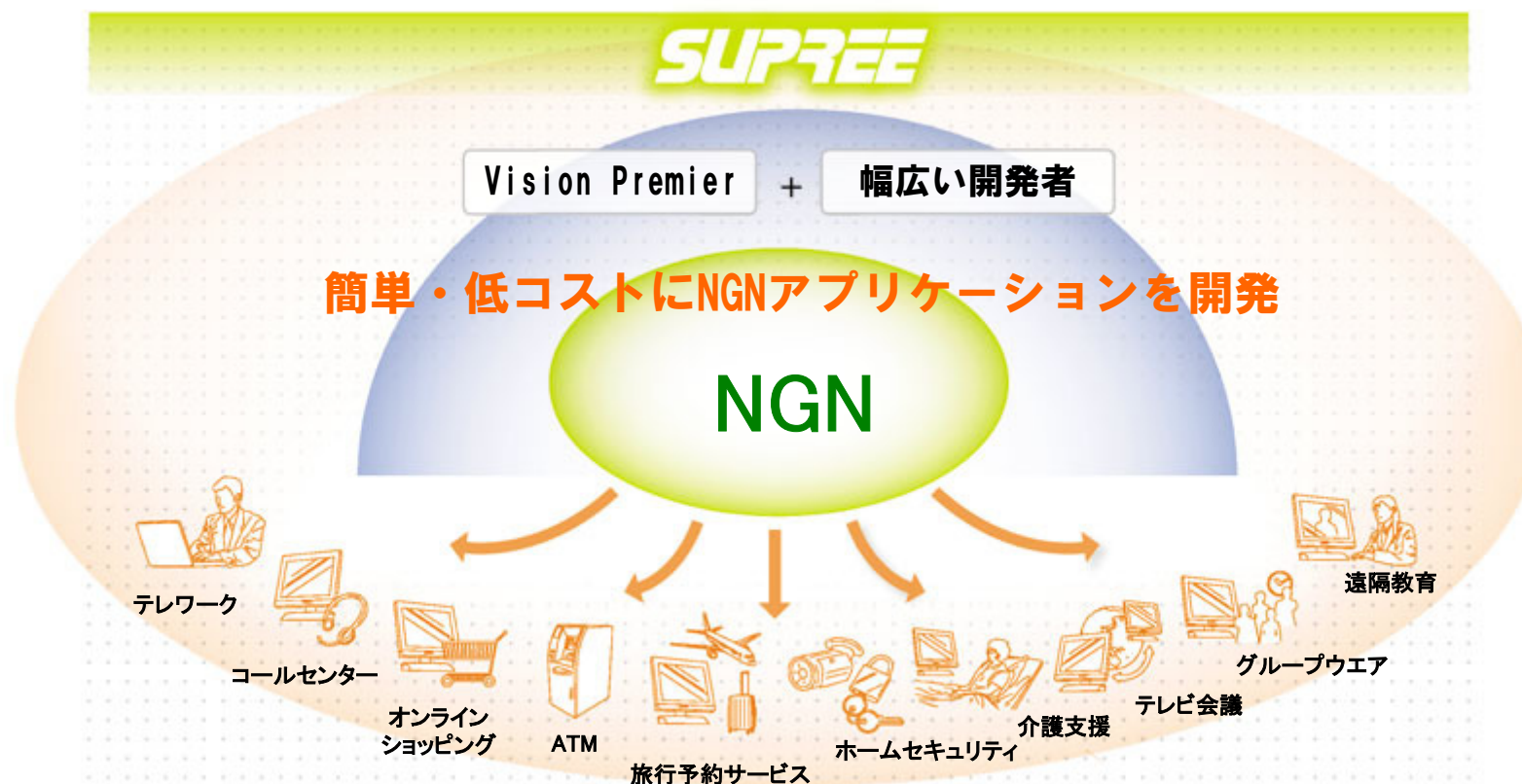
■ NGN対応ソフトウェア開発キット
「SUPREE Vision Premier (スプリービジョンプレミア)」を提供

本製品の提供により、NTTグループとともにNGN市場の拡大に取り組み、当社事業の拡大を図っております。

■ MFP(複合機)分野への取り組み強化と新たなターゲット市場へのアプローチ

細分化されたターゲット市場へのアプローチで成果をあげた複合機分野をさらに拡大してきているとともに、新たなターゲット市場への取り組みをはじめ、さらなる事業拡大をはかってまいります。

NGNを活用したアプリケーション開発を容易にするソフトウェア開発キット、
「SUPREE Vision Premier」を無償提供(※開発用途に限り)



NGN対応のWindowsおよびWebアプリケーションを短期間・低コストで容易に開発することができるキットを、NTTグループとの業務提携を通じて提供することで、NGN上のサービス提供が拡大し、人々のより良いコミュニケーション環境を創ることへとつながります。この事業を通じSIP/NGN関連市場をNTTグループと共に拡大していくことで、当社の収益拡大へとつなげてまいります。

SUPREE関連事例

NGN対応CTIコネクター「BIG CTI コネクター」(イリイ株式会社様)

2009年6月に発表させていただいたように、当社の「SUPREE Vision Premier」を使用し、イリイ様の「BIG CTI コネクター」をNGNに対応させることを可能にしました。

「BIG CTI コネクター」は、一元管理されたオンラインの顧客情報管理システムや販売管理システム等に電話の発信者番号を引き渡すことにより、簡単にCTI(Computer Telephony Integration)機能を追加できるものです。

当社の「SUPREE Vision Premier」を使用することにより、ビジネスホン端末やターミナルアダプター、CTIアダプター等のハードウェア機器を使うことなく、大幅に費用を軽減し、かつNGNに対応できるようになります。

今後の正式製品化に向けイリイ様に対するサポートを行っていくとともに、本件のような実例を参考にできる他事業、他分野への営業展開を行ってまいります。

■上記事例のみならず、「SUPREE Vision Premier」を使用することにより、NGN対応アプリケーションの開発負担が劇的に軽減されることは、各方面から評価されており、NGN網の広まりとともに本事業が拡大していく手ごたえを感じております。

SUPREE関連トピックス

録音・静止画送信機能を追加した「SUPREE Vision Premier Pro」提供開始

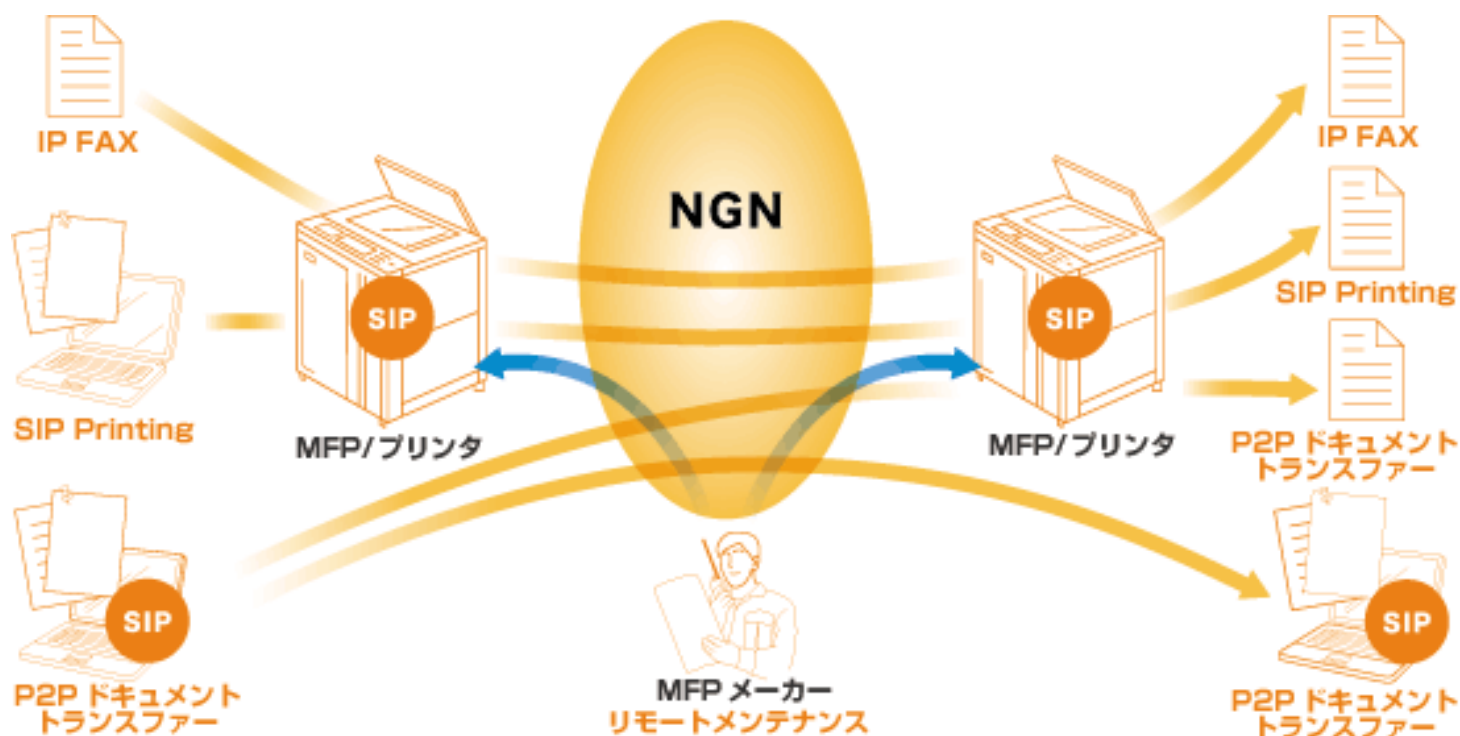
本日2009年8月3日より、「SUPREE Vision Premier」に“通話録音機能”と“静止画送信機能”を追加した上位版として「SUPREE Vision Premier Pro(スプリービジョンプレミアプロ)」の提供を開始しました。

SUPREE Vision Premierの提供により、様々なアプリケーションでNGNの活用が進んでいますが、コールセンターなどのCTI(Computer Telephony Integration)や遠隔教育といった専門性が高い通信アプリケーションにおいては、その業務の性質上、“通話録音機能”と“静止画送信”機能が必要不可欠であり、SUPREE Vision Premierと同様にこれらの機能を簡単・低コストに実現することが求められています。

ソフトフロントでは、これらのニーズに対応すべく、通話録音・静止画送信機能付きNGNアプリケーションを実現できる「SUPREE Vision Premier Pro」を開発しました。

今後は、さらに幅広い業種・多くの企業に対してSUPREEの紹介・導入に取り組んでいきます。

■上記事例のみならず、「SUPREE Vision Premier」を使用して頂いたお客様から寄せられる要望・ニーズを的確に捉え、ビジネス創出機会の拡大に努めていきます。



一昨年より重点的に取り組んだ細分化したターゲット市場へのアプローチは、オフィス内通信のIP化に伴いSIPへのニーズが顕在化してきた**MFP(複合機)分野で効果**をあげ、主要なMFPメーカー各社様との取引開始につながりました。

今年度は、当該分野の営業活動をさらに伸ばしていくとともに、これから需要が顕在化するターゲット市場に対し、同様のアプローチで更なる成果をあげてまいります。

MFP分野における事例(一部)

デジタル複合機におけるIPファクス機能(富士ゼロックス株式会社様)

2009年3月に発表させていただいたように、富士ゼロックス様のフルカラーデジタル複合機ApeosPort-III CおよびDocuCentre-III Cシリーズ12機種とモノクロデジタル複合機ApeosPort-IIIおよびDocuCentre-IIIシリーズ10機種の計22機種にてオプション搭載可能なIPファックス機能に当社のSIPミドルウェアが採用されました。

IP回線を用いたIPファクス機能は、通信費、管理費両側面におけるコスト削減できる機能であり、当社の技術により、課題となっていた接続性、安定性が高いレベルで実現可能となりました。

オフィスネットワークの進化に伴い普及していくIPファックスに当社の技術が活かされることで、オフィス環境の良化に役立て、さらに当社事業が拡大していくものと考えております。

■上記事例のみならず、当社の通信に関わる技術は当該分野各社に評価されており、通信分野以外の差別化技術に注力したい各社の要望と、当社の通信に関わる高い技術との補完関係により、当該分野において互いに良い協力関係を築け、当社事業の拡大につながるものと考えております。

Open Embedded Software Foundation(OESF)への参加 Android上で双方向VoIP通話に成功

当社は、3月24日に設立されたAndroidを携帯電話以外のさまざまな機器・システムに対して、共通フレームワークやプラットフォームを参加会員各社で共同開発し、その普及促進を目指すOESFに加入しました。

また業界に先駆けて、台湾HTC社製Android搭載スマートフォンにおいて双方向VoIP通話に成功しました。

今後は、オープンAPIとして規定・公開していきます。さらに、OESFと協力してAPIの標準化を推進し、Androidの組込み機器市場への普及に取り組んでいきます。

HD映像コミュニケーションユニットに当社SIPミドルウェア採用 (パナソニックコミュニケーションズ株式会社様)

10月1日より発売を開始するフルハイビジョン映像と音切れしにくいクリアな音質で、これまでにない臨場感のある映像通信を可能にするNGNにも対応した映像コミュニケーションユニットです。

当社のSIPミドルウェアが搭載され、各端末間の通信を支えています。

3Di社と、3D空間向けVoIP(IP電話)ソリューションの商用化で業務提携

Webサイトやイントラネット上で3D空間を活用できる3Di社の3D空間構築用サーバーソフトウェア「3Di OpenSim Enterprise」に、当社のSIP/VoIP技術により高い接続性、安定性、汎用性を実現した音声機能を搭載し、3D空間におけるVoIPソリューションを両社で展開していくことに関して業務提携を締結することで合意いたしました。

高い安定性をもったVoIPだけでなく、広まりつつある信頼性の高い次世代ネットワーク(NGN)への対応や、固定電話、携帯電話との連携も可能となるため、有用性が高く、今後さらに需要が高まっていくものと予想されます。

参考資料

企業理念（＝私たちの存在意義）

技術を愛し、技術を提供することによって、社会変革の牽引役となり豊かな社会を実現すること

※ 社会環境の変化： ユビキタスネットワーク社会の実現

※ SIPを活用した end-to-end（人と人、機器と機器、人と機器）のネットワーク環境を実現

ビジョン

- ・ 当社SIP技術をデファクトスタンダードにする
- ・ ライセンスビジネスの成功

- ・ 社名 株式会社ソフトフロント
- ・ 上場市場 大阪証券取引所「ヘラクレス」（2002年9月10日上場）
- ・ 証券コード 2321
- ・ 設立 1997年4月18日
- ・ 所在地 東京本社 東京都港区赤坂4丁目2-19 赤坂SHASTA・EAST 3F
札幌本社 札幌市中央区北9条西15丁目 札幌ITフロントビル 3F
- ・ 代表取締役 社長 阪口克彦
- ・ 従業員数 71名（2009年4月1日現在）
- ・ 資本金 27億9,247万円（2009年4月1日現在）
- ・ 決算月 3月
- ・ 事業内容 **SIP、VoIP技術**を核としたソフト開発環境の提供
および 技術支援、関連する受託開発・コンサルティング
- ・ URL www.softfront.co.jp

ソフトフロントが得意とする**SIP技術**

||

ユビキタスネットワーク社会を実現する基盤技術

ユビキタスネットワーク社会は、国連の下部組織であるITU-T(国際電気通信連合)が標準化を進めるNGN(次世代ネットワーク構想)によってその実現が後押しされており、**NGNの基盤技術にSIPが採択**されました。

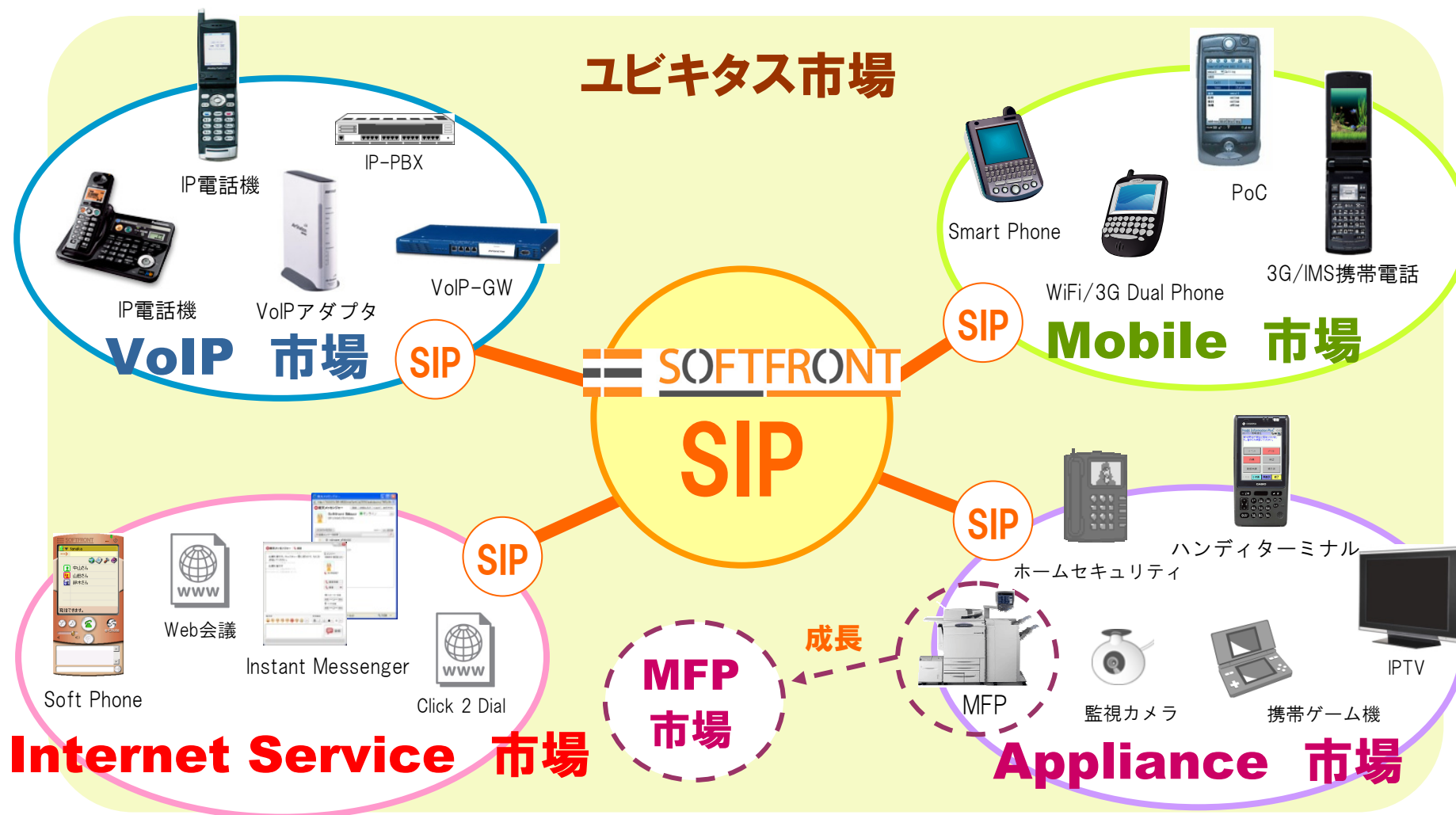
ユビキタスネットワーク社会全体

||

ソフトフロントの事業領域

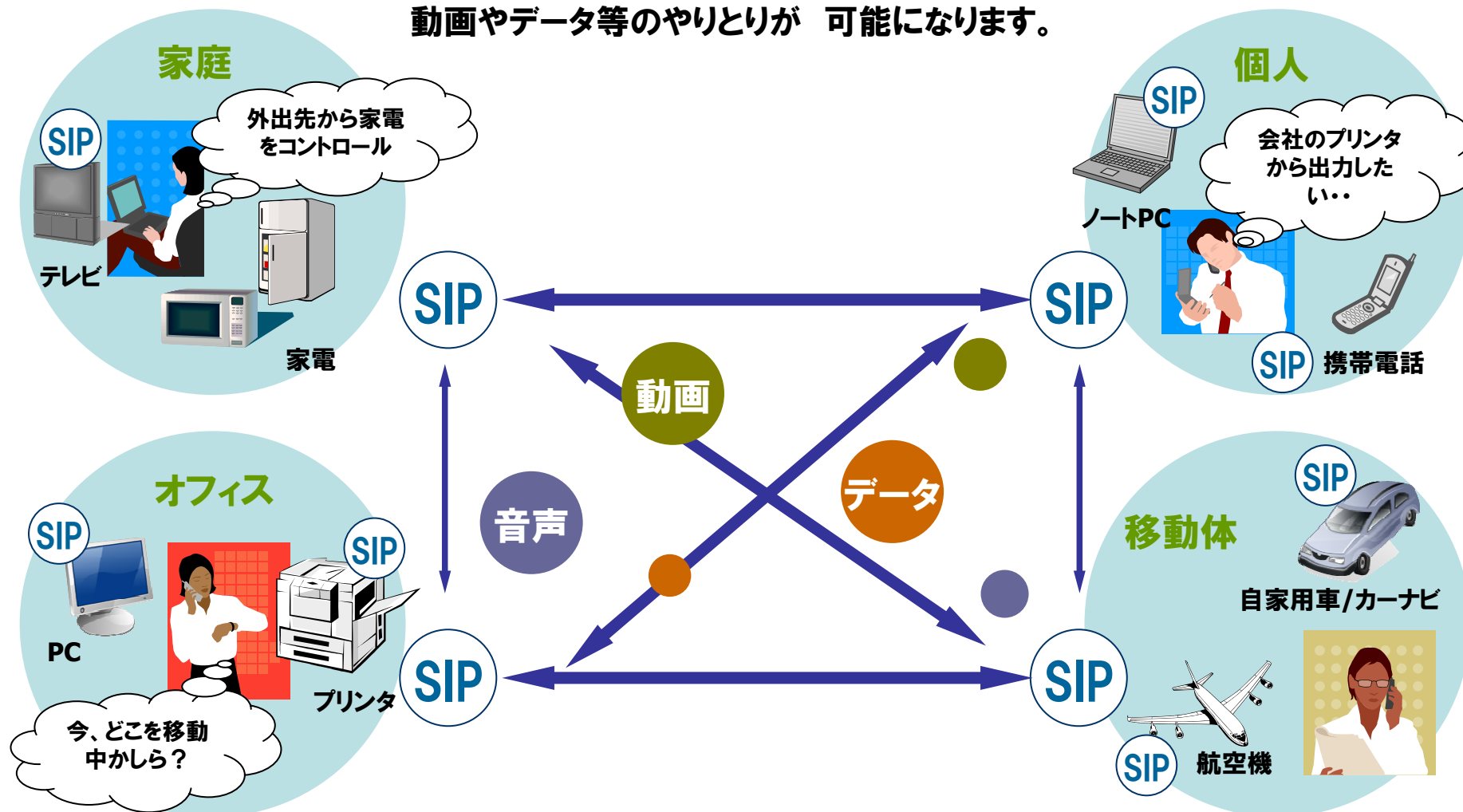
ユビキタスネットワーク社会における端末や機器の市場は2010年に7.8兆円になるといわれています。
(総務省「ユビキタスネットワーク技術の将来展望に関する調査研究会」報告より)

ユビキタス市場に参入する様々な企業に向けて、SIP関連製品・トータルソリューションを提供

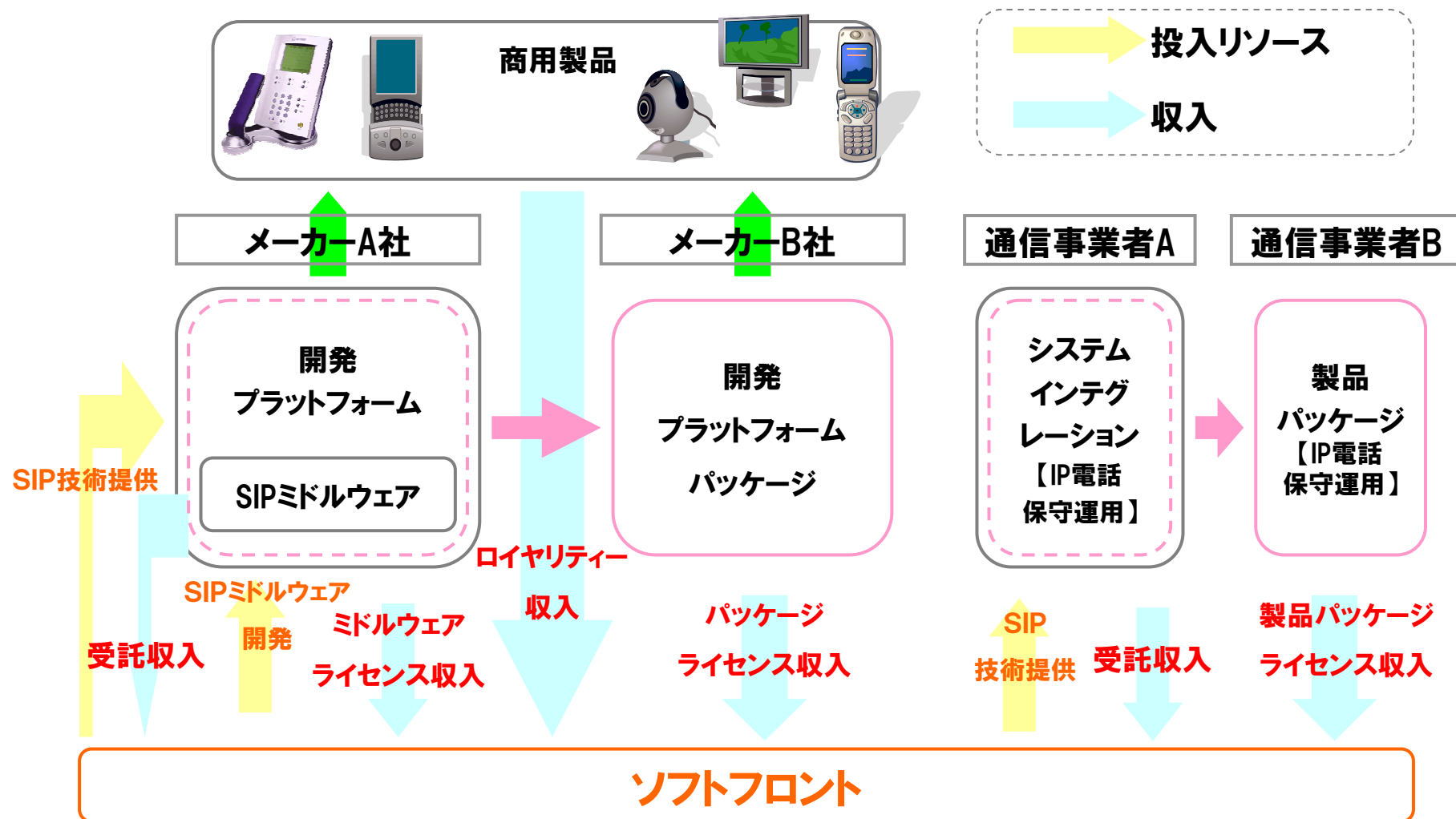


ユビキタスネットワーク社会では「SIP」を使い「いつでも、どこでも、誰でも、何でも」繋がる
便利な社会が実現されます。

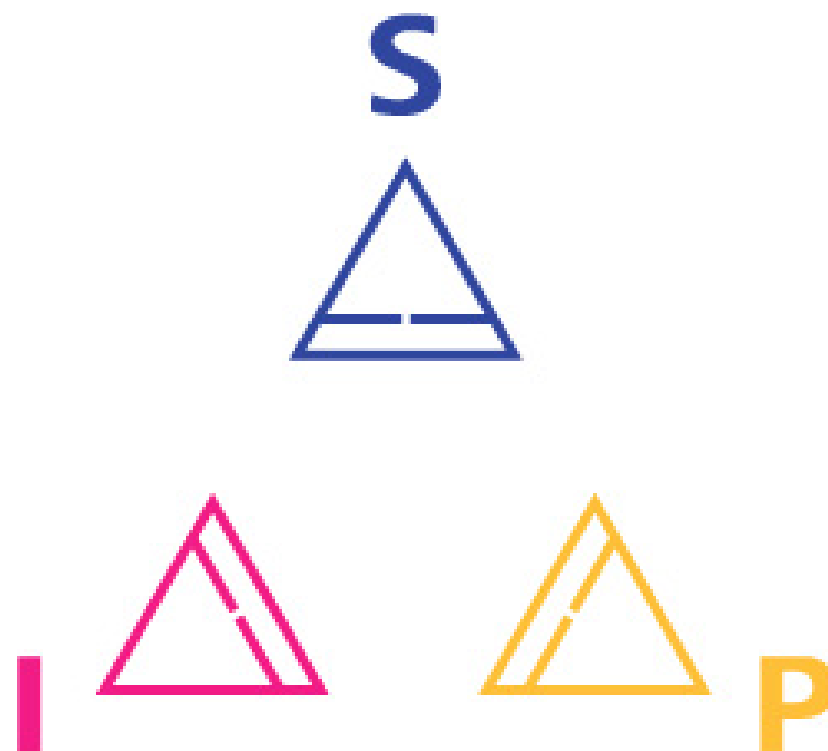
人から人、人から機器、機器から機器へ、音声はもちろん、
動画やデータ等のやりとりが 可能になります。



多様な収益モデルで収入の安定化を図っています



SIP connects the future



**ソフトフロントは SIP 技術を基に
社会変革の牽引役となり、豊かな社会を実現します**